

見直し対象補助金についての前回（18年度）会議録（公表版）

※番号は、当時の番号です。

※「補助金一覧 No.」は、別添の報告書、最終報告の補助金番号です。

No. 79 財団法人習志野市スポーツ振興協会活動費補助金（スポーツ教室分）（所管課：生涯学習部生涯スポーツ課）

No. 80 財団法人習志野市スポーツ振興協会活動費補助金（派遣職員等分）（所管課：生涯学習部生涯スポーツ課） 【補助金一覧 No. 94】

《上記2つの補助金は交付先を同じにするため、一括して審査した。》

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 相当の額の補助金である。こういうものこそ何とか出来ないものかと思う。
- ・ 財産を持っていて、市から職員が派遣されていて、市と同等なことをやっているのに、この委員会での審査の範囲を超えている。これは補助金だけの意味ではない。外郭団体の運営ということで、それだけの委員会で審議する必要がある。
- ・ 文化ホールと同じように、市からの派遣も含めた人件費、運営のあり方など、全体の運営方法を根本的に見直して、自立した運営を目指し、補助金の削減に努めて欲しいということではないか。
- ・ 単純な話、資産を持っているのだから、自分たちで自立出来るような運営計画を立ててくださいとなると補助金はいらなくなるのだが、市の一機構の中でたまたま財産区分とか創設時の関係とかで財団の形式をとっているだけであって、話は簡単ではない。市のスポーツ事業の全体から見直す必要があるのではないか。
- ・ 公共施設を運営する場合に、このように財団にしまうと経費が分りにくくなってしまふ。文化ホールと同じで、市からの派遣も含め、出来るだけ自立した運営を目指して欲しい。
- ・ この補助金の方向性としては、全体的な運営の見直しにより経費節減に努め、補助金も削減するというところでまとめた。

No. 13 労働団体厚生事業補助金（担当課：市民経済部商工振興課）

【補助金一覧 No. 77】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 補助金を出すようになったいきさつは何か。
- ・ 労働組合の系列からいって、どこかに偏っていることはあるか。
- ・ 職場内でも組合に入らない人が結構増えていて、そういう意味では公平さを欠いている気がする。時代が変わってきている。
- ・ その使い方そのものをみると、チャリティゴルフ・ボウリング大会などで、もう役割を終えているのでは。
- ・ 千葉市と船橋市に比べると、人口規模の小さい習志野市が100万円は多い。
- ・ 収入の中の構成要素をはっきりさせていく。それから、行事に使っているが非常にアバウトな積算である。行事の費用分担、全体の収入の構成をきっちり精査して、また組合員の組織率でも、妥当かどうかきちんと検討する必要がある。
- ・ 会費的なものが大きくてそのうち何割の補助であればいいが、丸抱えみたいな助成は止めた方がいい。
- ・ 収入と支出の内容をはっきりさせていただきたい。そうすると矛盾点が出てくる。その辺をきちんと把握したうえで、精査していただきたい。

No.40 たばこ売上推進事業補助金（担当課：市民経済部商工振興課）

【補助金一覧 No. 14】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 単純な話、行政がたばこの消費のため、補助金を出す時代なのかということである。
- ・ 確かに売り上げの一部は地元に着くが、そのような時代ではないのではないか。
- ・ どうみても市民に理解が得にくいのでは。市税収入が入ってきて、行政として助かる部分もあると思うが、健康の害とかを言われている時代であり、見直しが必要では。
- ・ 使い方も問題である。大半が広告宣伝費になっている。たばこ税は見逃せない財源だと思いが、だからといって補助金でのこの広告宣伝は不適切。広告宣伝はたばこ会社がすべきであって、市が出すものではないのではないか。
- ・ 公平性の点でも、組合数が減少し非組合員数が多くなっているのではないか。廃止という方向性でいきたい。

No.39 工業活性化事業補助金（担当課：市民経済部商工振興課）

【補助金一覧 No. 13】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 全体的には商工会議所と非常に密接連携な事業の様相がある。
- ・ 商工会議所の一部門であり、どうしても必要であれば商工会議所の中の補助金でやってもらえばいいのではないか。
- ・ 補助があるから色々やろうとしている感じがする。ない方がすっきりするのではないか。
- ・ 補助事務に係る職員の人件費の方が補助金額よりも大きい。内容は研修なので、これは各自がやってもらえばいいことではないだろうか。
- ・ 全体的には、商工会議所と非常に密接連携な事業の様相がある。特に事務委託料は。よって基本的には廃止として、必要であれば商工会議所全体の事業に取り込むこととしたい。

No.43 都市農地環境保全整備事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

No.44 土壌改良事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

No.45 野菜指定産地振興対策事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

No.46 野菜価格安定対策事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

No.47 試験展示圃設置事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

No.48 農業団体育成事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

No.49 農業祭事業補助金（担当課：市民経済部農政課）

【補助金一覧 No. 21～23】

《上記補助金は交付先を同じにするため、一括して審査した形となった。》

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 習志野市の将来像との関係で考えていかないといけないと思う。補助金を出しすぎると、自分で創意工夫をする意欲がなくなってしまうのではないだろうか。
- ・ 都市農地環境保全整備事業補助金は、遊休地を花できれいにしようという事業だが、一般の人が空き地として放置していたら逆に草刈代としてお金を取られる。これは補助金を出してやってあげようということで、一般市民とのギャップが大きい。そういうものとの整合性はどうか。

- ・ 中身が土壌改良とか色々あるが、これらを一括して審議しないといけないと思う。習志野市の農業組合が千葉市との組合と合併して、千葉みらい農業協同組合になったが、農業団体は行政に頼っているという印象をうける。都市農業は非常に効率が良いので、もっと自主性を発揮してもらって、自分たちでやろうという方向に持っていった方がいいと思う。補助金を個々に細かくやるような時代ではないのではないか。農協自体が農家と協力して、市からの援助がなくてもできるような方向性でやっていただいたらどうか。個々に補助金を出すのをやめて、一括して補助金として支出したらどうか。
- ・ これは全部市の単独事業である。それだったら補助金を一本化して、自由に使って構いませんとしたらどうか。統合補助金と言われるもので国でも行っている。総額は過去何年かの経緯を見て、段階的に半分まで持っていくなどしたらどうか。そういった大枠を決めない限り、おそらく個別には削減できない。ひとつひとつはそれほど大きな事業費ではないので、そうすると全部が中途半端になってしまうのでは。農協に一括して補助金をだして、みんなで話し合って頂き、効率的に使ってもらう方がいい。
- ・ 基本的に習志野市は近年受益者負担を徹底してきている。公民館などあらゆることに受益者負担という思想を取り入れているのは、非常に良いことだと思う。野菜価格安定対策事業のように、100%補助というのは、そういう考え方と矛盾しているのではないか。
- ・ 補助金を一括することによって人件費が相当減る。補助金額よりも人件費の方が高いものもある。
- ・ 一括して、適性にやってもらった方が公平なのかもしれない。
- ・ 全部支出先が千葉みらい農業協同組合なので、すべての事業を統合的に一括して、その中で適宜補助金額を減らしていく。それによって職員人件費も相当節約できるし、千葉みらい農協としても自立性や自発性がかなり高まるのではないかと。

No.37 習志野商工会議所補助金（担当課：市民経済部商工振興課）

【補助金一覧 No. 11】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 商工業に関してはもう少し自主的にやっていただいたらどうか。市からの援助も他市と比べると多いのでは。もう少し下げてもいいのではないだろうか。商工会議所自体が、ある程度自主的に収入を得るような努力をすることが必要だと思う。
- ・ 自主的な活動を増やし、また更なる内部努力により、経費の削減をしてもらい、もっと補助金を減らしていくようにしたらどうか。この範囲でやれることをやるというようにした方がいいのではないかと。
- ・ 基金が増加している。ということはかなりの収益と考えられるわけだから、補助金を減らすこともできるのではないかと。
- ・ 人件費を相当補助しているものも、自分たちで何とかしてやって欲しい。商売をやっている人だから、頑張ってもらいたい。
- ・ 全国的に商工会議所は、かなり厳しい運営を強いられていることは事実である。中小企業が不況で入る団体も少ない。経営努力はもちろんしていると思うが、更に人件費をどうするかである。
- ・ 個別には踏み込めない複雑さがあるが、人件費に踏み込むことにより、削減していただきたい。

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 人件費は別にして、市の補助金が500万円だけであれだけの「まつり」が出来れば立派ではないか。大人にとってもそうだが、子どもにとってはお祭りというのは思い出に残るものである。新しい住民が来てまとまるのは、やはり一つの大きなイベントが必要だと思う。市民がひとつに集まるというのは習志野ではこれしかない。それがこの額の補助金でできれば大成功な方だと思う。
- ・ 支出の中で、大きい金額でもかかわらず入札になっていないものもある。1年に1回だから入札にできるはずである。これを変えると大分違ってくる。
- ・ 補助金は表立って500万円になっているが、実際は他の補助金が回りまわってまつりの収入になっている実態を考えないといけない。市側に事務局があって、場所も占有している。職員も相当携わっているはずである。その経費を含めたら、とても500万円ではすまない。その辺も考えないといけない。
- ・ 入札制度の導入などにより、もっと支出方法の適正化等、中身を見直すことが必要ではないか。このまつり自体は、ここまでくると簡単にやめるわけにはいかないと思う。但し、あまり派手にやらなくてもいいのではないか。
- ・ 隠れた経費がたくさん入っている。警備や清掃の人件費その他で相当のお金がかかっている。まつりは以外に隠れた経費が多い。
- ・ 今後も市民まつりのあり方については、議論を継続していただきたい。この補助金額自体については、若干の見直しとか、そういう形で提言したい。